平成２５年度　三重県教育改革推進会議　第４回第１部会　議事録

Ⅰ　日　時　　平成 26 年 1 月 17 日（金）13:30～16:00

Ⅱ　場　所　　プラザ洞津　「高砂の間」

Ⅲ　出席者

（委　員）　小野　芳孝、佐藤　美保子、鈴村　豊嗣、中村　武志、東　博武
水谷　貴子、向井　弘光、森喜　るみ子、山田　康彦（敬称略）

（事務局）　副教育長　真伏　利典、教職員・施設担当次長　信田　信行、
学習支援担当次長　白鳥　綱重、育成支援・社会教育担当次長　野村　浩、
研修担当次長　西口　晶子、教育総務課長　荒木　敏之、
学校防災推進監　山路　栄一、教育改革推進監　加藤　幸弘、
予算経理課長　三井　清輝、福利・給与課長　紀平　益美、
学校施設課長　釜須　義宏、高校教育課長　倉田　裕司、
小中学校教育課長　鈴木　憲、特別支援教育課長　東　直也、
生徒指導課長 田渕　元章、子ども安全対策監　倉田　幸則、
人権教育課長　川島　三由紀、保健体育課長　阿形　克己、
研修企画･支援課長　川口　朋史、研修推進課長　松井　愼治、
社会教育・文化財保護課課長補佐　辻　喜嗣、
教育総務課班長　松下　功一、同課班長　辻　成尚、同課　川口　政樹、
西　達夫、伊藤　陽子

（加藤教育改革推進監）

定刻となりましたので、ただ今から、平成 25 年度第４回第１部会を開催いたします。

本日はお忙しい中、ご出席いただき誠にありがとうございます。本日は、梅村委員と耳塚委員がご欠席です。小野委員は、少し遅れるというご連絡をいただいております。

資料の確認をさせていただきます。机上に、事項書と、資料１「審議のまとめ（案）（第１部会関係分）」、資料２「三重県教育ビジョンの中間点検　審議状況」の３つをクリップで留めております。別冊としてＡ３版で「三重県教育ビジョン中間点検表」がございます。もう１つは座席表です。よろしいでしょうか。

それでは、山田部会長、進行をよろしくお願いいたします。

1　部会長挨拶

（山田部会長）

皆様、こんにちは。よろしくお願いいたします。

この第１部会は、三重県教育ビジョンの中間点検についてご審議いただいてきました。まだもう１回、全体会がございますが、部会としては今年度、これが最後となります。前回の 12 月 16 日の全体会のことを振り返ったうえで、今日の審議の仕方について、先にご確認をいただき、その後、実際の審議に入りたいと思います。

12 月 16 日の全体会では、第１部会での審議状況の報告をさせていただいて、第２部会の委員の皆様からいろいろなご意見をいただきました。また、耳塚委員から特に学力の向上等に関わる教育行政の取組などについてもご意見をいただきました。詳細はまた議事録で確認していただければと思いますが、例えば、学力の向上についてですが、教育行政が「全国学力・学習状況調査」の結果を公表していくにあたっては、説明責任を果たさなければならず、教育行政の中にＰＤＣＡサイクルが作られていくことが特に重要だと、耳塚委員はご指摘されています。

また、ＰＤＣＡサイクルのＣのチェックの部分をしっかり取り組むことでサイクルが回っていくので、それができるような組織づくりが必要だというご意見もいただきました。

土曜授業についてもご議論いただき、土曜授業については基礎自治体の単位で考えるのではなく、広域自治体で取組を進めるほうがいいんじゃないか。また、県と市町等教育委員会が、現状や課題をしっかり分析して取り組んでいかなければ、地域間の格差が広がってしまうというようなこともきちんと考える必要があるというご指摘もありました。

その他、学力の向上のためには、低学力層にスポットを当てて取り組むことが大切であるというご意見もいただきました。先ほど言いましたように、詳細につきましては、議事録をご確認いただければと思います。

本日の会議では、私たちの部会の議論と前回の全体会の議論を踏まえて、三重県教育ビジョンの中間点検について、審議のまとめを行う形で進めていきたいと思っています。本日の資料は、資料１として、これまでの部会での議論を踏まえて、一応事務局で「審議のまとめ（案）（第１部会関係分）」という形でたたき台を作成していただいています。資料２に関しては、これまでの部会と 12 月の全体会で委員の皆様からいただいた意見をまとめた資料になっています。資料２を踏まえつつ、資料１が作られていくという形になっています。本日の議論は資料１を中心に進めていきたいと思っています。

資料１をご覧ください。事前にご覧いただいているかと思いますが、事項書にありますように内容が大きく３つに分かれております。１つ目は、「三重県教育ビジョンの中間点検」ということで、３ページからです。それから、２番目が、「今後２年間に特に注力

するべき取組」です。これは項目しかないですが、６ページに「４」としてタイトルが付けられています。３番目が、「次期三重県教育振興基本計画の策定に向けて」ということで、これもタイトルしか付いておりませんが、「５」として、項目を記載しております。

まず、「今後２年間に特に注力するべき取組」ということについては、最初の中間点検でいただいたご意見を踏まえて、今後の２年間に三重県の教育施策として特に力を注いでいく、どれも確かに大切ですが、その中でも特に力を傾注していく取組について、この推進会議でご提言をいただければと思っています。

その次の「次期三重県教育振興基本計画の策定について」は、来年度から検討を進めていくことになりますが、検討するにあたっての課題などについて、ご意見、ご提言をいただければと思います。そういう形でこのまとめ案に項目として付け加えさせていただいています。

このような構成で審議のまとめを大きくは３つの柱でまとめていってはどうかと考えています。審議のまとめ方について、まずは委員の皆様からご意見をいただいて、それを確認したうえで審議の中身に入っていきたいと思います。主に審議のまとめを、今の３つの柱でまとめていくことについて何かご意見、お気づきの点はございますか。ありましたらよろしくお願いします。

よろしいでしょうか。そうしましたら、中身に入っていろいろご意見をいただければと思います。

それでは、最初の三重県教育ビジョンの中間点検についてです。資料の「はじめに」のところから「中間点検」のところまでについて、事務局から説明していただきたいと思います。

２　審議事項　　テーマ：「三重県教育ビジョン」の中間点検

（１）審議のまとめ（案）について

○　「三重県教育ビジョン」の中間点検について

（加藤教育改革推進監）

資料１の１ページの「１　はじめに」の部分ですが、ここは、これまでの当三重県教育改革推進会議の過去から現在に至る経緯について概略を記させていただきました。そのうえで、４段落目になりますが、平成 25 年度の三重県教育改革推進会議は、三重県教育委員会から次の２つのテーマについて審議を行うことを依頼され、これに応じ、審議を行いました、ということで、（１）として第１部会関係の「三重県教育ビジョン」の中間点検、（２）は第２部会関係です。そして、その結果を、今ご覧いただいているものですが、審議のまとめとして報告をします。今後は、三重県教育委員会がこの審議のまとめを参考に、施策の実現に向けて取組を進められることを期待します、というような書き方でどうかということでたたき台として作らせていただきました。以下、事前送付さ

せていただいたものと本日の資料はすべて一緒です。この１ページの部分については、昨日先行して行った第２部会でも同様に確認をしています。こういう形で次回の全体会に出させていただいたらどうかという趣旨のものです。

続きまして、２ページの審議のテーマにつきましても、第１部会と第２部会と並べて書いてあります。このページも第２部会でも確認をいただいておりますが、最初の５行ほどのところで、全体会や部会の回数等についても記したうえで、（１）第１部会の「三重県教育ビジョン」の中間点検のテーマの選定理由ということで、平成 22 年 12 月に策定した現ビジョンは計画期間が 23 年度から 27 年度までで、これが計画期間の３年目となったということで審議を依頼する必要があるということです。

そして、中間点検は、ビジョンの６つの基本施策につらなる 32 本の施策について、「主な取組内容」を中心に２年間の取組内容、成果と残された課題、今後の取組方向について中間点検表をもとに検証し、課題を洗い出すとともに、今後重点的に取り組むべき方向等について審議を行いました、という書き方でどうかというたたき台です。（２）の第２部会関係については、第２部会のほうで審議しましたので、省略をさせていただきます。

それでは、３ページからが具体的な審議結果です。先ほど会長からもありましたように、資料２については、前回の 12 月の全体会でのご意見も踏まえて、皆さんからいただいたご意見を施策ごとに記しています。資料２の中から類似のご意見等を一つにまとめる、あるいは、項目ごとに代表的なご意見をまとめていますが、このような表記でいいかどうか、また、不十分な点はないか、あるいは、加除修正すべきではないかという観点からご覧いただければありがたく存じます。

項目のみの形になりますが、簡単に確認をしていただきますと、３ページ（１）基本施策１「学力と社会への参画力の育成」の関係ですが、１つ目の　○全国学力・学習状況調査の結果で全国平均と比較し低位で推移していることから、目標に実績が近づいているというような評価でいいのか疑問が残る。全国学力・学習状況調査の結果については、冷静できめ細やかな分析を行うとともに、課題等を家庭や地域と共有し、一体となって県民総参加でレベルアップにつなげていく必要がある。以下、この基本施策については、学力の向上、また、特別支援教育、キャリア教育等に関するご意見を頂戴したところです。

（２）基本施策２「豊かな心の育成」ですが、１つ目の　○「三重県人権教育基本方針」に基づき施策を推進し、すべての学校への人権教育カリキュラムの普及にしっかり取り組むことが必要である。以下、規範意識の育成、また、いじめの防止、４ページにわたって、スマートフォン等の情報教育関係、また、暴力行為、読書活動というようなことで、基本政策２の関係を７点にまとめましたが、いかがでしょうか。

続いて、４ページ（３）基本施策３「体力の向上」、１つ目の　○「食育の推進」にかかる施策目標項目「朝食を毎日食べる小学生の割合」について、数値が向上していない

ことから、「みえの地物が一番！朝食メニューコンクール」だけでなく、別の方策を検討する必要があるのではないか。また、学校給食の食べ残しの多さも課題となっている。子どもたちが生産現場を知る取組を進めるなど、県をあげて食育を推進していくことが必要である、等以下学校給食、体力の向上、武道必修化に伴う課題等、この基本政策３の関係を４点にまとめましたが、いかがでしょうか。

（４）基本施策４「信頼される学校づくり」です。１つ目　○グローバル化が急速に進み、教員に英語力やＩＣＴ化への対応等が求められている。個人の資質任せにするのではなく、体系的な人材育成・研修が必要である。また、教員の個々のニーズに柔軟に応じられるよう、研修体系を工夫するとともに、学校に不可欠となっている講師に対する研修を充実させていくことが必要である。以下、教員にとっての充実した教育活動、また、異校種の連携ということで、この基本施策４に関して、３点にまとめましたが、いかがでしょうか。

続きまして、（５）基本施策５「多様な主体で教育に取り組む社会づくり」ですが、１つ目の　○近年、保護者のＰＴＡ活動等への参加が減っているが、一方で自分の子どもの活動に対しては熱心な保護者は多いことから、うまく機会をとらえて、保護者と学校が協力して取り組めるような工夫が必要である。以下、高校における将来親となるための教育、地域で子どもの学習や活動を支える取組等について、３点にまとめました。

（６）基本施策６「社会教育・スポーツの振興」です。１つ目　○文化財や文化施設を学校教育へ生かしていくことは重要である。平成 26 年４月開館の新県立博物館は、学校と深い関係があり、三重県中の子どもたちのよい学習資源となるよう、教育委員会として取り組んでいくことが必要である。また、インターハイ、国体に向けたご意見を含めて２点にまとめました。

（７）としてその他施策全般について、５ページの一番下の　○教育委員会が行う教育行政の中に、ＰＤＣＡサイクルが作られているが重要である。ＰとＤはできていてもＣができていないことが多いというようなご意見、あるいは、国の動きに関することも含めて２点にまとめましたが、いかがでしょうか。

資料の説明は以上です。よろしくお願いいたします。

（山田部会長）

それでは、資料２もご覧いただければ分かりますが、資料２に書かれているものが、すべて資料１の中間点検に含まれているわけではありません。私もこの項目とこの項目は資料１の中間点検のどこに記載されているかと全部照合してみました。複数の項目が１つにまとめられている項目もあります。かなりフォローされている部分もありますが、もしかして委員によっては、もっとこの点は中間点検に記載したほうがいいというご意見があるかもしれません。あるいは、表現などについてもいろいろご意見をいただければと思っております。

こちらについては、目安としては２時半ぐらいまで議論していただいて、休憩を入れるというような予定にしております。

先にお伝えをさせていただきたいのですが、本日、耳塚委員、梅村委員がご欠席ですが、欠席の委員からご意見をいただいている部分があります。それをご紹介しておきたいと思います。耳塚委員から１点だけですが、こういうご意見をいただいています。

３ページの基本施策１「学力と社会への参画力の育成」の最初の項目ですが、ここを加筆訂正をしたらどうかというご意見をいただいています。それは、最初の○の３行目ですが、「全国学力・学習状況調査の結果については」というところがありますが、その後に次のような言葉を入れたらどうかというご意見をいただいています。「全国学力・学習状況調査の結果については」の後に「市町村教育委員会と連携して効果的な施策を実行するともに」という言葉を中に入れて、「冷静できめ細やかに分析をし、課題等を家庭や地域と共有し一体となって県民総参加でレベルアップにつなげていく必要がある」という、主に「市町村教育委員会と連携して効果的な施策を実行するとともに」という言葉を入れたらどうか、というご意見をいただいています。

そういうご意見も含めて、お気づきの点について委員の皆様からいろいろご意見をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

（向井委員）

三重県の教育ビジョンですが、かなり市町に浸透してきて、校長先生をはじめ、学校はかなり認識しているなと私は感じています。

私は今、鈴鹿市の中学校に行かせていただいておりますが、鈴鹿市の教育委員長をはじめ、学校、そして、今、商工会議所までそれが伝わってきて、その中で若い青年たちがキャリア教育を受け持ったり、また、違うことで支援したりしていこうという気運が盛り上がってきたと思っています。我々はいろんな形の中で、こういう中間のチェック、どこが進んでいるかいうことをやればいいんじゃないかと思います。これだけせっかくいいものができあがってきましたし、そして、それが学校にも浸透しつつある。でも、それだけだったら、従来の学校の校長先生や先生の範ちゅうで進めていることになってしまいます。本当に地域全体がどうやっていくかということを、その優れた例をこんなところで聞かせていただいて、そして、それを水平展開していったらすごくいいんじゃないかと思います。三重県の全体の中で僕のところはちょっと成績が上がっているとか威張っていただいて、ほかにも展開してというように、この中間点検でチェックをして、また、それを水平展開していただければ広がっていくのかなと思います。

（山田部会長）

ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

次の今後２年間に特に注力するべきことというのと議論が重なってくる部分もあるか

もしれないですが、強調して書いたほうがいいところや入れたほうがいいところはいかがでしょうか。大体大事な点については入っておりますでしょうか。

（東委員）

１点質問と、意見を言わせていただきます。

資料２の３ページですが、ずっと読んでいって自分が理解できないところですので、説明いただきたいと思います。（５）②の最後の行、「その結果、高校の中で多様な生徒に対応することが必要となっている。」とあります。そこの②の１行目から２行目を読むと、ちょっと伝わりにくいように思いましたので、ここの確認をしたいと思います。

もう１つ、学力の向上に関わって私は大事な視点だと思うのは、ＩＣＴの活用のことです。資料１の中でＩＣＴが出てくるのが４ページ、信頼される学校づくりで出てきていますが、教員のＩＣＴの活用は、グローバル化が急速に進んできたために対応するという部分もありますが、ＩＣＴを一つのツールとして活用することによって、子どもの学力を高めていくのが非常に大きなねらいですので、ここの基本施策１の（１）学力の育成のところに、そういったＩＣＴの活用をすることによって、学力の向上を目指していくというような何かＩＣＴに関わるところが、入ってくるべきではないかと感じました。

ＩＣＴとはタブレットだけではなくて、プロジェクター、電子黒板、書画カメラ、そういったものを使うことによって、例えば、教科書の一部をプロジェクターで示すことによって、子どもが今どこの部分を勉強しているのかとか、注目度が随分高まってきたり、ＩＣＴを使いながら表現力が高まってきたりとか、授業の中での話し合い活動が活発になってきて、子どもたちの学力の向上が図られる部分がありますので、私はＩＣＴの今後の活用は、学力の向上の部分の役割が非常に大きいと思っております。

（山田部会長）

主に２点ご指摘をいただきましたが、最初の点についてよろしくお願いします。

（加藤教育改革推進監）

資料２の３ページの一番下になりますが、（５）高校生の学びの継続、いわゆる中途退学問題に関する②中学校から高校への進学では、生徒の学力に合わせて高校を選ぶことが多くなっているというようなご発言ですが、このことについては、第２回の部会であったと思いますが、中途退学の問題に関して、まだまだ学力を中心とした高校選びということで、将来的なことや意欲、そういうこともちろんやってもらっていますが、もっとそのあたりをやっていく必要があるのではないかというようなニュアンスの中でのご発言であったかと事務局としては理解させていただきました。したがいまして、小学生の暴力の話と２つの意見を１つにしているところがありますが、資料１の４ページの

２つ目の〇高校生の中途退学があることについて、背景や課題を把握して指導につなげていくことが大切であるという表現でどうかということで書かせていただきました。もっとわかりやすく、とか少しニュアンスがというようなことがあれば加除修正していただければありがたいと思います。よろしくお願いいたします。

（山田部会長）

この点についてはどうでしょうか。東委員、もう少し今の意図みたいなことが分かりやすい記述にしておいたほうがいいとか。

（東委員）

私が分かりにくいと感じましたのは、高校へ進学するときには、子どもたちの学力に合わせて当然入っていきます。ある面ではそれぞれの高校によって学力の層は決まってきますね。ある一定の層の子どもが高校を選んで入学してくる中で、多様な生徒に対応することが必要になってくるというところが、わかりにくかったので、聞かせていただきました。そういった意味です。

（山田部会長）

よろしいですか。では、少し分かりやすい表現ができれば検討していただくということでよろしくお願いします。

ほかにいかがでしょうか。

（中村委員）

全体に今までの意見を踏まえていただいて、丁寧にまとめていただいていると思っています。

２点意見を言わせていただきます。資料１の３ページの基本施策１の（１）の最初の〇の一番最後の行のあたりですが、「県民総参加でレベルアップにつなげていく必要がある。」、何のレベルアップかという対象がはっきりしていません。おそらく言わんとすることは、子どもたちの学力向上を図っていくということではないかと思います。もしそういう意図でしたら、そちらのほうが分かりやすいのではないかと思いました。

それから、５ページ、（６）基本施策６　社会教育・スポーツの振興で、それぞれの施設について言及をしていただいております。それぞれの市町の財政状況、あるいは環境によって子どもたちのアクセスにはかなり差があるのではないかと思います。市町と連携して、子どもたちに均衡にといいますか、交通不便地のところでも子どもたちが文化施設やスポーツ施設に気軽にアクセスできるようなことについて検討していくという文言が入ればいいんじゃないかと思っております。

（山田部会長）

ありがとうございます。いくつかご意見いただいてから、事務局の当面の考えを答えていただこうかと思います。では、お願いします。

（水谷委員）

先ほどの東委員のお話の資料２の３ページの「高校生の学びの継続」というところですが、高校の中で多様な生徒に対応することが必要となっているというのが分かりにくいというのは、これは多分私が思うに、高校の中で多様な進路を希望する生徒に対応することが必要となるというのではないかと思いますが、いかがでしょうか。

（山田部会長）

こちらについては、事務局も考えていただきますが、これは今、高校が既に半義務教育の状態になって、ほとんどの生徒が高校に行く。そういう中で、高校がある意味で非常に多様化している。生徒が多様化するというより、まず高校が多様化していて、その多様化している高校の中でさらに生徒が多様化している。その多様化の中身というのは、確かに学力面で多様化しているだけではなくて、いろいろな心理的、精神的な課題も含めて困難な問題を抱える生徒もいろいろ出てきているという、そういう学力だけではない、いろいろな面での生徒の多様化というのがあって、そういうことを高校ではどうやってフォローしていくかということが求められてきているということを指しているのかと私は理解しています。もしそうであれば、そういうふうに分かりやすく書いたほうがいいとさっきから思ってはいます。この点についてのご意見が出ましたので、どなたかいかがでしょうか。そういう私の解釈でいいのかどうか。

（加藤教育改革推進監）

議事録の確認で時間を取り、申し訳ございませんでした。

ここでの元々のご発言は、高校の選択肢が少ない場合があって、その中で学力を中心に選ばれている現状がある。選択肢が少ない中で学力を中心に選ぶと、多様な生徒が入って来て対応が大変になるのではないかというご趣旨だったかと思っております。表現がどうかということがあるかもしれませんので、もう少し分かりやすい、今ここでもご意見をいただいたうえで修正させていただければと思います。

（山田部会長）

水谷委員、特に追加はございますか。よろしいでしょうか。

ほかにご意見はいかがでしょうか。

そうしましたら、先ほどの中村委員のご指摘に関わっていかがでしょうか。事務局の考えはありますでしょうか。

（白鳥次長）

１点目のレベルアップのことですが、当然ここは学力に関わってのことですので、ご指摘の修正のほうがより適切ではないかと思っております。

（山田部会長）

その文言については検討するということで。もう１つの５ページの施設へのアクセスのことなどもいろいろ考慮したらどうかという点については、どうでしょう。

（社会教育・文化財保護課　辻課長補佐）

アクセスの問題は検討できていませんが、２点考えており、１つは、今度新しくできる新県立博物館について社会教育の場だけではなく、学校教育の社会見学や学校行事で使えるようなメニューを作っていくことを、まず、第一義と考えています。それから、入場料のことを今、検討しているところです。土曜日や日曜日などに子どもたちが博物館へ行って、自主的に学べる場になるような入場料の形態を考えております。

（山田部会長）

最初の文化財、文化施設を学校行事に生かしていくことは重要であるということについては、先ほどの後者のほうの考えということでよろしいですね。

（小野委員）

３ページの（２）基本施策２　豊かな心の育成のところの２つ目の○ですが、言わんとしていることは分かりますが、規範意識が学力の向上にも密接に関わってくるのは事実だと思います。ただ、その後の表現ぶりといいますか、教室の中での学習規律を中心とした、「中心とした」という言葉が入っていますから、そのことだけじゃないということは分かりますが、規範意識とは基本的生活習慣みたいなものですが、挨拶や時間を守るとか提出物を出すとか、そういう凡事的なことの徹底が学力の向上と密接に絡んできます。その辺のことをもう少し学習規律を中心としたという表現よりも、基本的生活習慣のような表現を用いて表したほうが、生活全般についての規範意識をきちっと持たせることが、学力と密接に関わってくるという解釈によりつながっていくんではないかと思います。いかがでしょうか。

（山田部会長）

重要なご指摘だと思います。ほかにいかがでしょうか。

（東委員）

審議の状況をまとめてもらってはいますが、ひょっとしたら非常に大事な部分について審議がなされてないのではないかということを、ずっと読んでいて気になっているところです。これが公表されたときに、この部分は一体どうなっているのかという、抜け落ちているところがひょっとしてあれば、事務局からも指摘いただきながらの意見交換も可能かと思います。

（山田部会長）

そういうような点についてお気づきの点が委員の中でもありましたら、今からでも大丈夫ですので、いろいろご意見をいただければと思います。

少し早めですが、今の議論を踏まえて、２つ目の審議事項の「今後２年間特に注力するべき取組について」というところに議論が入りますが、ここでは資料１や資料２、特に資料１にあがっている中でどこに力を注ぐかみたいな議論ですが、先ほど東委員がおっしゃったように、もう少し角度をつけて、これは大事にすべきとか、そういうことも含んで、今後２年間に特に注力するべき取組のところもご議論いただければと思います。

次のところに入ってしまいますと、かなり中途半端になってしまいますので、早めですが、ここで休憩を取らせていただいて、10 分後に再開させていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

○　「三重県教育ビジョン」に基づき、今後２年間に特に注力するべき取組について

（山田部会長）

再開させていただきます。

次は、今後２年間に特に注力するべき取組についてという２つ目の柱に入っていきたいと思います。この２つ目の柱については、１つ目の柱の中間点検自体が、資料２を踏まえて、さらにそれをまとめていますので、資料１の中間点検のそれぞれ自体が非常に重要な事項となっています。なので、さらにというのはどういうことかとなってしまうかもしれませんが、さらに、その中でも特に力を注ぐべきことについてご議論いただいて、推進会議から提言させていただくというふうに考えています。こちらについては、そういう注力すべき点ということを中心にしますが、例えば、先ほどの資料２を見ますと、いくつか空いている項目があります。１ページの下に、「外国人児童生徒教育の充実」という項目があります。中間点検で、これだけのことをやっている、また、その方針も持っているので大体それでいいかということで、特にご指摘はいただいていない項目なんですね。それから、ほかにもありまして、４ページの真ん中ぐらいに基本施策３「体力の向上」の（１）健康教育の推進、それから、その次の５ページの一番上に、（１）子

どもたちの安全・安心の確保、いじめの問題とかはほかに書かれていますので、防災教育とかにも関係してくると思いますが。

それから、（６）に学校の適正規模・適正配置、この辺についても特段ご指摘いただくことはなかった点です。もしこれについても、この点は強調しておかなければいけないという点がありましたら、付け加えてご指摘いただくことも含めて、ご議論いただければと思います。全体には、この中間点検を踏まえて、今後２年間に特に力を注いでいくべき取組についてご議論いただくということです。

最初に事務局から説明をいくつかしていただきます。

（加藤教育改革推進監）

間違いの箇所の修正と補足の説明をさせていただきます。資料１の４ページの（３）基本施策３「体力の向上」とありますが、正しくは「健やかな体の育成」、ビジョンでは126ページのところです。

同様に資料２の４ページの基本施策３が、同じように「体力の向上」となっていますが、これも正しくは「健やかな体の育成」です。以上、修正です。誠に申し訳ございません。

もう１点、休憩前の議論の一部補足ですが、スポーツ・文化関係の施設の充実に関係するようなことですが、ビジョンは県の教育委員会が作るものですが、これらのものは教育委員会以外の知事部局も関連しますし、施設に関しては市町も関係してきますので、県教育委員会ということになりますと、現状の中ではどちらかといえば、建物そのものというよりも子どもたちが移動する手段の予算的な支援が今のところ中心です。そんなようなことも一定ご理解いただいたうえで、どちらかといえば、今からご議論いただく今後の注力するべき取組のところでご意見いただくのも一つの考え方かと思っております。

（山田部会長）

それでは、いろんなご意見をよろしくお願いいたします。こういうところを特に注力すべきだという点ですね。お願いいたします。

（水谷委員）

どれもこれも大切なことだと思いますが、土曜日の活用等については、今までとは少し変わってきますので、これに関しては至急に検討していただいたほうが、学校側も活動などがいろいろしやすくなるのでないかと思います。

私が思いますに、あまり窮屈なルールを設けてしまうと良いものが出てこないような気がしますので、例えば、アウトラインを教育委員会のほうで考えていただければ、各市町や学校が特色のある方向で検討して活動してみる。そして、ＰＤＣＡではないです

が、チェックをしていろいろ検討を行ったうえで良いものは吸い上げて取り組むべきものだとして考え、また、思うようにいかなかったところのある学校なり市町の取組に関しては、こういうことがうまくいかなかったということを反省したりするようなチェック体制をつくって、なるべく早い段階で良いものを作り上げていけるような体制が必要ではないかと思います。

それから、もう１つはスポーツ推進ですが、インターハイや国体に向けてということですが、８年後とかなり迫ってきていますので、こちらに関してはなるべく早めにいろいろと手を打っていただき、もし国体に向けて選手の強化が必要であるならば、そのようにすることも考えたほうがいいかと思います。施設の安全性を高めることや魅力を発信することと同時に、若い子どもたちは指導者によってかなり伸ばされる能力も違ってくると思いますので、これは教育委員会の指導者のスカウト力にかなりかかってくるのではないかと私は思っております。サッカーの試合等が行われていましたが、強豪校というのはこの辺で言えば四日市中央工業高校もかなり強いですが、伝統のあるところにはそれなりの指導者がいますし、その指導者の下で指導してきた次の指導者、あるいはそこで育ってきた人たちが、すごくいい指導のノウハウを身に付けてきていると思います。そういう人たちをどんどん活用して、いろいろなところに教育委員会が指導者を散りばめていって、全体の競技力を上げていく。指導者のスカウトにかなり力を入れていただければ、子どもたちも安全で確実に能力が上がってくるのではないかと思っております。

（向井委員）

私は企業界出身ですから、極端な言い方をすると思いますが、三重県の教育ビジョンの今後２年間に特に注力するべき取組についてということですが、ずっと私、ここに参加させてもらって、言葉とか何かのやり取りはすごくいいし、三重県の教育ビジョンの内容を見ても、バイブルとしてはすごく良いと思います。だったら、学力の向上のためにわかる授業を構築することが重要であると書いているなら、47 都道府県で三重県は 15 位を２年後に目指すとか５年後に目指すと明確に言って、なぜ到達しなかったかを検証する時代が来ていると思います。言葉のやり取りだけでは全然進まないと思います。我々企業人は実行して成果を必ずチェックするという形ができていますが、これだといつまでも一緒じゃないかと思います。

学校問題解決サポートチームについても、私もやらせていただいて分かるんですが、300 何件の問題が鈴鹿市の小中学校であって、それがこういうことを作ることによって 80 まで減った。１年間に 80 の問題が起きることは正常であると。バイブルと取組ができたから、それをもっと高度化していけばいいと言っているわけです。明確なベンチマークがないと難しい。

学校で食事をしないということがありますが、こんなことは栄養学の先生に聞けば簡

単なことです。腹が減ってないからです。午前中に運動をちゃんとしている人は、お腹が空けば食べるわけです。昔の人に肥満とかはなかった、今は、車があり何かがあって、座る時間が長いから肥満だと言っているわけです。明確にターゲットをもってやべきです。言葉のやり取りをやっていたら、いつまでも良くならない。会社は強烈に行動と成果を求めてチェックしていきます。そういうことが必要だと思っているんです。僕は、いつもこういう協議会って文言とかすごいなと思っているんですが、実行して成果をちゃんと確認していく、そういうことをやっていくことが必要じゃないかと思います。

学生に我々の業界は嫌われていると、なぜかといったら、我々の業界はノルマがあるとか成果があるとか言われた。じゃあ、それをやめろと。どんなお店をつくってどうやったらみんなが来るかと、そういう魅力あるものをつくっていこうというふうに変えました。そういうことをやったときに、女性も男性と同じ成果が出ている。だから、これからは全部データをちゃんとチェックして、ターゲットを示して、そうすると検証がやりやすい。言ったとか言わないとかというのは、さっぱり僕には分からない。成果は全部必ず数値に変えていくようにしてほしい。

食事をしないというのも、おそらくスポーツ医科学や栄養学の先生に聞いたら、お腹が空いてないから食べないんじゃないかと言うと思うんです。よく分かりませんが、お腹が空いていたら飯を食うし、いっぱいだったら食べないんじゃないかと考えて、単純化したほうがいいんじゃないかと思いますが、いかがでしょう。

そして、食事がきちっとされたら脳の回転も良くなると言っているわけですから、これをどう実行して数値で置き換えていくかということを考えてほしいと思っています。我々の企業でこんなものを作ってもらったらすごいなと思っているんです。行動して成果に結びつけていくことをぜひともお願いします。

（山田部会長）

ほかにいかがでしょうか。

それでは、皆様がお考えの間に、私の気がついていることについて発言させていただきたいと思います。

１つは、学力向上の問題ですが、ずっと議論をしていて、何かもう一つ加えることが必要だなと、何かが足りない、何だろうとずっと考えてきました。私自身がこの間、この場で発言をさせていただいてきたのは、まず、一つひとつの学校がちゃんと子どもたちの学力を身に付けていくことについて、それぞれの学校がそれぞれの状況にふさわしくちゃんと目標を持って、取り組んでいく、そういう学校ごとの取組がとても大事じゃないかと思ってきて、それはそれで今も変わらないんですが、もう一つ、授業のイメージも少し変えないといけないんじゃないかと思っています。今まで、学校の中で授業を考えるときに、「楽しい授業」とか「わかる授業」という言い方をしてきて、それはとても大事ですが、それプラス、もう一つ大事なのは、それをすることによって子どもに力

になる授業ということを改めて考えていく必要があるんじゃないかと思っています。ですから、授業の中で先生方が単に目標を持つだけではなく、子どもたちにも学ぶことのめあてみたいなことを自分で自覚できるような、先生目線の目標ではなくて、子どもたちがわかる、自分たちがこういうめあてを持って学習するという授業で、子どもたちの力になる授業を改めて考えていくことが必要じゃないかと思います。学力の面で、今までの議論に付け加えてしまうようなことですが、最近、いろいろ考えて、もうちょっと切り拓く必要があると思って考えたことです。一言、言わせていただきました。

（小野委員）

今後、特に２年間に特に注力するべき取組についてということについて、イメージを聞きたいのですが。事務局に答えてもらうのかわかりませんが、基本施策１から６までありますね。その施策の中で１本か２本というイメージなのか、それとも、基本施策１から６の施策の中で、私のイメージでは、知・徳・体の面で力を入れる項目を探ってみたらどうかと思いますが、どういうイメージを持っておられるか教えてほしい。

（加藤教育改革推進監）

中心は施策の中ということは考えております。中間点検表として、机上にＡ３の厚いものを置かせていただいていますが、この中の各ページの右のほうに「Ｅ」という欄、今後の取組方向の中で特に注力する必要がある取組について、これは事務局として判断をして、★印のものについては注力する必要があるのではないかと考えているところですが、これでいいのかどうか、★印にはなっていないが、ここはいろんな子どもたちの状況等を考えると必要ではないかということがご指摘いただけるのであれば、いただきたいと思っておりますし、また、ビジョンそのものは 27 年度末まではこれで進めますので、これを修正するということは考えていませんが、その範ちゅうで、あるいは、その範ちゅうから少しそれるが、このあたりは注力するべきということがあれば、そこもいただければと思っております。

（佐藤委員）

私は学力の向上が一番に来るべきかと思います。学力について、三重県が低いということで、どうしてかというのをこの会議に参加させていただいてから、ずっと考えていました。三重県の学校が悪いのかというと、他の都道府県に比べて学校が悪いことは全くないんじゃないかと思います。それで、基本施策５に「家庭の教育力の向上」というのがありますが、家庭の教育力というのが結局は意識が低いというか、三重県の県民性かもしれないですが、のんびりしていて、あまりガツガツしていないところが、学力が全国より低いところにつながっているんじゃないかと私は思います。のんびりしているところが必ずしも悪いことではないとは思いますが、そういうところがつながっている

ということで、家庭の教育力がアップするような施策を打っていけば、必ずそれが反映されてくるんじゃないかと思われます。なので、施策がミックスされてくるような感じにはなりますが、そういったことも考えていってはどうかと思います。

この基本施策１の文章を読んでいると、一体となって県民総参加でレベルアップにつなげていくというのは、よく読んでみると県民みんなのレベルが低いのかみたいに思えてしまったりもします。学力に課題があるのはどうしてかと突き詰めて考えていくと、そういうことかと思いますので、家庭の教育力を高めるようなアイデアというか、そういうのが必要と思います。

いろんなところで県民総参加と言われていますが、何に総参加するんだろうと思ってしまい、例えば読書をもっともっと家庭でしましょうとか、具体的にもっと子どもと向き合って話をしましょうとか、具体的な何かがあるといいのかなと思いました。

（森喜委員）

佐藤委員のおっしゃるとおりと思います。

先ほど山田先生がお話しいただいたことで、ちょっと目から鱗が落ちたような気がしました。

まず、目標としては、県の教育レベルを上げることは必須です。学力の育成についての７項目、それと、今まで議論したことを振り返ってみると、あくまで子どもの目線からすると受動的なことなんですね。上からどうやっていったらいいんだと、子どもが主体になっていないところがあるので、子ども自身がこれから自分の生命力や生活力を上げていくために学習することが必要だというような意識をまず持つ。親から勉強しろと言われて、はい、勉強しなきゃとか、はい、勉強しますと喜んで言うような子どもはなかなかいないと思います。自分を振り返っても、親から勉強しなさいと言われて、はい、勉強しますなんて言いませんでしたので、まず、自分自身が何のために勉強するのか、勉強していったら、こういうことがその先に見えてくるとか、この時期に勉強しておかないと身に付くものも身に付かない。公教育としてこれだけのチャンスが与えられているありがたさは、大人になってから我々は身に染みて分かってきていると思うので、まず、子どもに学力を身に付ける意識を持たせるためのもの、キャリア教育にも結びついてくるかもわからないですが、そういうことをやっていく必要があると思います。知識を得る、あるいは自分で考えて、こういうことができていく喜びみたいなものをまず目標にしておいて、具体的なものが出てこなくて申し訳ないですが、子どもが自ら学習に取り組む、そういう意識向上みたいなものを図ることも考えなければいけないと思います。

（山田部会長）

ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

先ほどの佐藤委員のご発言にフォローさせていただくと、これまでのこの会議で家庭の教育力、地域の教育力が議論されているときに、一言で言えば、学校・家庭・地域が協力する新しい形態なり、新しい試みをもっと発見したり発掘したり、そういうことが今、非常に求められているんじゃないか。そういうものを生み出していく、そして広めていくような取組が必要だということが何回か議論されたように思います。例えば、ＰＴＡがなかなか成立しなくなってきている中で、だけど、保護者は自分の子どものことは考えているけど、そういう会合にはなかなか来てくれない。そういうところをどうつなげていくのかという新しい試みとか、地域の人が学校にいろいろ協力してくれる新しいチャンネルとか、そういうものを開拓していくような取組が今は求められている。そういうことのご発言が何回かあって、それも確認しておく必要があると思いました。

ほかにいかがでしょうか。

（向井委員）

事務局に聞きたいのですが、ここで議論されるようなことが市町に伝わって、私がいる鈴鹿市では役に立てて行動しているわけです。市に関しては、このビジョンが結構浸透していると、僕は感じるようになりました。その成果は県でチェックしているんですか。

（加藤教育改革推進監）

現状としては、県のビジョンについては、教育長会議等々を通じて県のビジョンを策定する過程でも、策定後にも各市町にご理解いただいています。そして、教育振興基本計画は、今のところ、策定が義務にはなっておりませんが、各市町の多くのところで策定されておりますが、全ての市町ではありません。市町が中間点検などの固有的なことをするかしないかは、それぞれの市町ごとということで、県がそれをチェックしていくという形には現在はなっておりません。それぞれの市町でやっていただいていると思っています。

（向井委員）

私はたまたま鈴鹿市で、県から周知されているものは見ているのですが、それをチェックしてくれているのか疑問に思いました。鈴鹿市ぐらいの都市でも、どうしても成果を求めていくのに時間がかかるということも事実です。

私は、ビジョンの策定に関わらせていただいて、中学校でキャリア教育などに取り組んでいます。中学校までの９年間が基礎づくりですね。高校がまた３年間あります。子どもたちに、そのために何をするか。子どもたちにすべて基礎づくりがあなたの運命を変える、ということを教えています。子どもたちの回答は結構すごいんですね、中学生でもちゃんと回答してくれる。

では、その次に何するかと言ったら、我々企業が少し余裕もあったから、小中学校全校に本を寄贈しました。私が行くときに必ず漫画本を持っていって、その漫画本が何冊かあって、感想文を書いてもらいます。経済界ではいつも言いますが、ドラッカーが人間の成長を支えたと言っているのは、本か人しかないんです。成長したというデータを取ってみてもそうです。やっぱり、学校ではちゃんと本を読ます、それから、多くのチームができ、成長していく。学校の先生って意外と閉鎖的だったんだなと思いました。もっと外部の人を入れて、使って少し余裕を持たれたらどうですかと、言っています。今、商工会議所の青年部などで最高学府を出て結構頑張っている人たちがお手伝いしてもいいですよ、とやっていったときに、徐々に変わっていくと思うんですね。そういうふうな形が必要で、文言よりも成果をどこに求めていくかということが大事だ。

僕はリクルートにおいて、高校生は言われたところだけしか採用しないでおこうと思ったのですが、高校生の採用をやってみて、高校生の採用が３倍になりました。そして、その子たちの育成に対しても、私どもで普通科高校から２級整備士を目指すなら、当社で育ててあげられないだろうかという形で、２年間の訓練所システムをつくりました。その間にアルバイトをして学費が全部無料だと、もしくは小遣いぐらいは払えないだろうか、検討しろということで、やっています。学校教育の向上に民間を参加させれば、必ずそこにコストや成果をお返しすることができると思っていますから、市町もどんどんこういう会議に出て意識を変えていくべきじゃないかと私自身は思います。

本田技研というところで新しいホンダ学園ができましたが、そこの創業者に「向井、お前ちょっと行って社会を教えてくるように」ということで、今、三重大に５年ほど講師で行かせてもらっていますがその反応もすごいんですね。民間人を使うべきだと思います。先生がみんな背負ってとか、三重県民はボーとしているからいけないのではないかとか、それは絶対間違っていると思います。ちゃんとした教育システムをもう一回新しい時代に合わせてつくるべきだと思います。

そして、プロジェクターなんかを使っていたら、それを止めて質問すると、結構答えてくれます。アンケートにもその言葉がちゃんと書かれている。黒板に書いて、しゃべったりするだけだったら、ポイントが分からないんですが、プロジェクターを利用して、止めて説明した場合に必ずアンケートに書いているということもあるので、子どもたちはものすごく成長できると思います。極端に言えば、先生は経営品質などの外部研修にどんどん行かせてあげてください。そこを穴埋めできるような人たちが今は地域に育っています。最高学府を出て、結構しっかりした人材がいるのだから、民間を活用すべきだということをお願いしたい。

三重県にも一つ如実に表れているんですが、今は中小企業振興条例というのが制定されていますが、７割の方が事業税を払えない状況です。税金を払う人はたった３割しかいないんですね。これでは県の財政力も乏しいです。下から今は変化をさせていかないと、絶対におかしくなります。学校教育を徹底的に変えていくことを大事にしてほしい

と思っています。言葉のやり取りなどはあるが、三重県が出すものを市町までどんどん伝えて、成果を確認して、どんどん発表していく。そうしたら、我々もそうやってお手伝いできますが、言葉のやり取りや何かで、どこに行きたいのか、どこがベンチマークか分かりにくいというのは、なかなか他を参加させにくいと思っています。２年後、３年後に、本当に県民参加で取り組んでいる市町があると、このように成果も上がっているという形を示していくことです。

食事を食べないと言ったら健康医学の先生を全部呼んできて、なんで食べられないかと全部チェックしてデータを取ればすぐ分かるんです。言葉だけだったら、ここの家庭が悪いんじゃないかとなります。我々を参加させていただいたなら、とことん成果に結びつけるべきだと。そんなことを、この２年、３年のうちにお願いしたい。

僕は、県がここまでやってくれているとは思わなかったのですが、学校までビジョンが結構浸透していることは分かりましたので、あと、チェック機能が欠けているんじゃないかと思います。

（山田部会長）

さっきのお腹が空いたら食事ということですが、中間点検の４ページの「健やかな体の育成」の３つ目の項目に「子どもたちの幅広い体力の向上が求められており、日常生活の中で体を使って楽しむ土壌づくりに学校で取り組めるような施策が必要である。」と入れてくださっています。三重県の子どもたちは、学力も考えなくてはいけないんですが、体力も非常に重要で、特に体力はただトレーニングをして体力がつくというだけよりも、もっと基礎的な体を使って遊ぶなどいろいろやっていく、そういう最も基礎的な体の部分を形成しながら、段々トレーニングも後から入っていくみたいな、そういう体づくりが本当に大事だと思っています。学校の中で自然に楽しんで体を使うことに取り組めれば、先ほどの食事の問題も解決していくんじゃないかと思います。基本のところからの体力の向上も本当に大事だと思っています。

改めて確認ということで、今、いくつか委員からご意見がありましたが、県が来年度予算の編成にあたって、教育施策で特に重点的に取り組もうとしていることについても簡単に紹介いただいて、もし何かご意見があればと思います。紹介いただけますでしょうか。

（加藤教育改革推進監）

前回のときに来年度予算の政策を資料として一覧で出させていただきましたが、その中で重点として考えているのは、学力の向上と、特別支援教育については第２部会でも熱心にやっていただいていますが、これも重要だと思っております。それから、グローバル人材ということで、これは国も含めてですが、このビジョンの中にもそのようなことは入っているんですが、さらにグローバルという視点で、これは教育委員会だけでは

なく、県全体でどう対応していくか考えているところです。

それから、いじめの法律のこともありますが、安心して学べる環境づくりにつながる施策も大事だと思っております。あと、インターハイ、国体に向けた今後の取組や、あるいは道徳教育も国のほうでも動いてきたりしますので、そんなようなところを予算上は重点化と考えております。

（向井委員）

先ほど中村委員が言われたんですが、県の教育施設に行くのに結構アクセスが遠い地域もありますね。学校教育の予算で、このような地域にはバスの運賃の援助はできないのですか。

（阿形保健体育課長）

予算的な措置は、県内の大会での旅費の部分は見積もってはいません。全国大会に生徒が行く部分についての派遣費の旅費補助は進めています。

（向井委員）

予算がない学校は、多くのところは県の図書館に来ることもできないということですか。

（阿形保健体育課長）

スポーツに関することでお答えしました。

（向井委員）

スポーツでも何でもそうですが、施設へ行くのに、移動費用が要りますね、それは支援することはできないんですか。

（阿形保健体育課長）

例えば部活動のことで事例を言いますと、当該の学校が部活動を設置するときに、その種目の年間の大会スケジュールなどを見ながら、それぞれの学校の経費の中でそういったものを見積もりながら生徒の派遣などをしています。県内の大会の実態はそうなっています。

（向井委員）

こんなすばらしい施設ができるので、知事に言って、アクセスの支援も予算として取るべきじゃないかと思います。予算のない、アクセスの悪いところは見られないというのは問題だ。

私もリサイクルセンターをやっていますが、地域から子どもたちが観光バスで来るんです。費用はどうしているんですかといったら、学校で出しているとか、子どもたちが500円とか保護者が負担しているんですね。こういう施設のアクセスについても、支援していただければ助かると思います。

（山田部会長）

その辺、校長先生はいかがですか、そういう文化施設とか、子どもたちがいろんな学びの場を広げていく、いろんな資源を使っていく、そういうところでの使いやすさや使いにくさ、利用しやすさ、その辺のことについて何かご意見はございますか。

（鈴村委員）

まず、お金は出ません。中学校体育連盟の関係も予算は減りました。結局、行こうとなると受益者負担の考え方といいますが、行く人がお金を負担しましょうと、子ども、保護者が払うこととなります。もしくは、学校でこの学年が特定の施設へ毎年行くということであれば、例えばＰＴＡの学校の援助のような項目で、今年、自分の子どもは行かないけれど、その学年になれば行くので、みんなで負担をしましょうという形で行っていただくようなことは過去にはありました。

（山田部会長）

一つの検討課題として提言いただいたということですね。

ほかにいかがでしょうか。

（小野委員）

向井委員が言葉は非常に見事であると、後は実行であると、あるいは成果指標をという話が出ましたが、この文章をずっと読んでみると、先ほどから県民総参加であるとか、あるいは地域、あるいはＰＴＡと連携しながら、というような文言もあると思いますが、小中学校と県立学校は違いますが、実態を言わせていただくと、当然と言えば当然ですが、ＰＴＡと連携する、あるいは企業と連携すると、これは開かれた学校づくりにとっては不可欠でやっていますが、実際にどこが中心となってやっているかというと学校です。県教育委員会でいえば、県教育委員会と学校がそれぞれやっている。

その中でいろんな施策を打っていくにしても、文章にしても、成果が出せるような仕組みづくりがきちんとされていないと私は思っています。だから、多様な主体という表現がありますが、多様な主体の役割を明確化すべきだと私は思っています。ＰＴＡ連合会が学力向上についてＰＴＡの方にどういう役割を果たしてくれるのか、学校は学校としてどういう役割を果たすかというような仕組みをきちっとしないと、言葉は不適切かわかりませんが、限界があります。それで絵に描いた餅になってしまうところがあると

思うので、効果を出すために、書いたものをきちっと実行していくためには仕組みづくりが必要じゃないかと思います。そのためには多様な主体の役割をきちっと明確化すべきだと。教育委員会としても限界があると思います。県民総参加で昨年度から学力向上県民運動に取り組んで、県教育委員会も非常に頑張ってもらっていますが、県教育委員会がいろんな働きかけをしたとしても、多様な主体がそれを下部組織にまで下ろしていっているかというところもあると思いますので、仕組みづくりが必要じゃないかと思います。

（森喜委員）

今後２年間に特に注力するべき取組についてというところに戻っていきますが、学力の育成のところで、やはり先ほどから、家庭の教育力と当然、学校の教育力が大切ということと、全体会でいただいた意見の中で、低学力層にスポットを当てていくとか、資料２の１ページの学力の育成の中の③の少人数教育、あるいは、習熟度別の教育が大切ではないかというのが書かれています。

先ほど事務局から予算配分のところ、学力の向上に対する予算を一番に掲げてもらいましたが、具体的にどういうための予算がそこには計上されているのか、例えば教育に関する材料のところなのか、あるいは人的なところなのか。少人数教育が大事、家庭のケアが大事ということになると、人的な予算は大きいと思います。そのあたりを聞かせていただけるとありがたいです。

（山田部会長）

それについては、ビジョン全体の中間点検の中で、一応こういう形でということでいろいろな施策が打たれてはいたと思いますが、特に学力についての重点的なことについて、どなたかお話いただけませんか、簡単で結構ですので。

（白鳥学習支援次長）

予算に関係しては、現在庁内で調整中なので、現時点では具体的なところをなかなか申し上げにくいのですが、全国学力・学習状況調査から見える子どもたちの課題は、より明確になってきていて、そこにどう学校・家庭・地域が対応していくかということがあります。この学力調査で示されているものは、今の学習指導要領の中で求められている「子どもたちに育みたい力」であって、それをいかに効果的に身に付けさせられるか、そのために日々、学校の中で先生方がどのように授業改善にしっかりと取り組んでいくかといったことにありますので、そういった部分の支援を引き続きしっかりと対応させていただきたいということが、現時点で申し上げられる内容です。具体的にお話できる段階になったら、またお話しさせていただきたいと思います。

（信田教職員・施設担当次長）

少人数教育の教員の配置については、今、予算要望中ですが、県独自として少人数学級やＴＴ（チーム・ティーティング）とか、そういった少人数教育ができるような定数配置については、現在も要望させていただいているところです。

平成 25 年８月に、文部科学省が７ヶ年計画の定数の要求がされて、今回の政府の予算の中では削られたところもありますが、そういった国の加配定数についても、県としてはこれからも要望していきたいと思っておりますし、来年度の定数に向けては、三重県に配当されるよう、要望も引き続きしていきたいと思っています。

（鈴村委員）

学力の向上について意見を述べさせていただきます。

注力すべき項目にこの学力向上があがるのは、至って当然で当たり前のことであると思います。そのときに、どう目標を設定するかというところで、例えば頂点を取るとか、国内の双璧であるとか、ビッグスリーだとか、四天王だとか、そういう言葉を使うと、勢いはえらく元気ですが、私は、それは危険だと思っています。順位は良いに越したことはないですが、順位よりも各問題の正答率、誤答率と言ってもいいのですが 、何％低いかという数字がいろいろデータとして示されるのですが、三重県が低いという話で、順位でいくとすごい数字が出てはきますが、実態は、パーセントで言うと２ないし３％ぐらいだろうと思います。間違っていたらすみません。この２％、３％が何十何位というイメージと同じなのかというと、違うと思います。目標は総体的なもの、他と比べるのではなく絶対的なもの、このような問題について何％アップ、もしくは何％低い、こういう物差しの設定の仕方をしていただきたいと思います。これが一つです。

土曜日の活用の件も意見として出されてきましたが、これに関わってお願いをします。ＰＤＣＡサイクルというのを盛んに言われて、そのとおりだと、あるべき姿だと思います。土曜授業の活用についてというと、では、これまでの学校週５日制の総括というか振り返りが県の教育委員会として行われているのか。もし行われているのであれば、学校現場や保護者に示していただきたい。だから、土曜授業をやるんだと。それがないと説得力もないし、本当に注力して取り組むことかどうかが分からないと思います。ＰＤＣＡ、チェックを過去何年間分かを終えて、初めて次のプランです。Ｐの部分も示されているかというと、市町で頑張りましょうと言うだけでは、示されていないと思っています。こんなふうな形でこの目標に向かってやりましょうと、例えば毎週土曜日に授業をやるんだとか、隔週で授業をやるんだとか、ここまで行きたいというところも示していただけるといいかと思います。いろんな項目について、ＰＤＣＡを各現場がやることは当然ですが、県教育委員会としても行っていただけると大変ありがたいと思っております。

（東委員）

学力調査に関わってのことが続いております。私はそれぞれの学校あるいは市町教育委員会の単位で見てしまいますので、県の教育委員会からという視点では、はずれた発言になるかもわかりませんが、県民や市民、保護者は、特にここ最近、学力の向上を求める声があります。それが一方では学力の順位を意識してのことだと思います。

前回の全体会のとき、耳塚委員が、その正答率が競争に使われるようになってはとんでもないことになる、と言われていましたが、それは本当に全くそのとおりだと思いますし、であるならば、学校の説明責任、教育委員会の説明責任が求められているのではないか。評価の部分ですが、調査を通してそれぞれの学校、市町が、どんな課題があるのかしっかり把握をする。そして、それを具体的な施策、取組によって学校が取り組む、その取り組んだ結果、どうであったのかということを学校がきちっと意識を持って把握することが、まず今必要ではないか。今後２年間、私は点数で競うことにならないためにも、そういった部分をきちっと行いながら説明責任を果たしていくことが、ぜひとも必要と思っております。県の教育委員会からそういった部分で今まで分析の仕方であるとか、いろんなことについてはご支援をいただいておりますので、市町とともにそういったことをしっかり支援をしていただきたいし、取組も進めていかなければいけないかと思います。まずは学校、教育委員会の説明責任が、これから２年間ますます問われるのではないかと強く感じております。

土曜授業に関わってですが、私は土曜授業を進めていくうえで一番大事にしなければいけないのは、地域住民、保護者とともにその時間をいかに有効に過ごしていくかという視点を忘れてはいけないと思います。学校だけで土曜授業を進めていくと、その目的、ねらいがはっきりしていきませんので、その土曜授業をすることによって、子どもが家庭へ帰ったときの時間が、今までより、より充実した生活につながるとか、あるいは、学校の先生たちの意識が、この土曜日は少し家でゆっくりさせる、充実させるといった意識を持ちながら、土曜日の活用が学校での土曜日の３時間、４時間の意味だけではなく、子どもが家へ帰ったときの生活、あるいは、社会の受入体制がそのことによって変わっていく一つのきっかけにしていかないと、土曜授業は意味がないと考えております。そのあたり、いろんなところと連携しながら、しっかり進めていく必要があると思っております。

（向井委員）

土曜日に授業をすることは、企業ならばブラック企業と言われかねないことです。先生は、このことの反省をしてもらわないといけない。学力の低下ということからそういうことが言われ出したと思います。家庭が週休２日で、子どもたちに土曜日は出てこいという形はちょっとおかしい。これは先生方からもっと声を上げるべきだと思うんですね。我々企業の場合だとすべてそうやられるわけです。

我々の会社で休日にちょっと出てきたといって、セキュリティーを見たら出てきてるようだと。全部それは休日残業代を払います。そこまで我々は自分の中で認識している。だから、さっき言ったように行動し成果を上げてやっていくということですから、学校にもそういう声を上げていただくことが必要だ。

それと、２％とか３％の差と言うんですが、私に言わせれば、これは競争力の決定的な差になります。これを無駄にしては絶対いけません。

我々の業界だったら、売上高の３％が経常利益だったらいい会社だと言われているんですね。それが下がったらどうなるかということです。それから、我々は社員が来たときに、その会社が私にとってはベストの会社だと思って入社してくれると、それも３％の収益につながる。就職口がなかったからこの会社に嫌々就職したと言う社員だと、マイナス２％になると出ているんです。その方が会社に入ってくると、マイナスを与えると。そこまで企業はデータに基づいてやっているということを考えるなら、もう少し子どもたちの教育に真剣に取り組んでほしいと思います。

家庭も何も関係ありません。私の知っているご夫婦は夜中まで食堂をやっていて、大変忙しくしています。その息子さんたちは、名古屋大学、東京大学に入りました。おそらく保護者が一所懸命に働いている姿を見て、自分は勉強しないといかんなと思ったわけです。学校で生まれる素地が大事だということを考えてほしい。

私もびっくりしたんですが、給食費が払えない子がいると。これこそ救済すべきじゃないかと。市町に出せと、市の予算から出せと。できない場合は民間で出すというとこまで言って、給食費もそうやって出していくという形も如実に出てきました。子どもたちの成長を阻害する要因は全部取り除くべきだと思います。そんなふうに真剣に子どもの育成を考えてあげないと難しい。

我々企業は、人材はかなりほしいと思っても、そのスキルに達していない者は絶対採りません。なぜなら、マイナスということが出ているんです。嫌々来てもらっている人を入れることによってマイナスになると、お客さんに迷惑をかける。それは徹底的に見抜きます。学力も関係ありません。それは人間力でやっていくわけですから、そういう点で学校教育も社会に出ることの大切さを教えていくべきだと思います。

先生は数%のことをおっしゃるかもしれませんが、企業は数%が世界に通じるか通じないか重大な問題になるということを知ってもらいたい。

（佐藤委員）

先ほどから土曜日の活用のことが言われていますが、ぜひ土曜日の活用を学力の向上につながるようなことで使っていただければと思います。私はこんな土曜日だったらいいなと思うのは、例えば、今、子どもたちは理科離れですごく理科が嫌いになっていると言われていますが、それを補うためにということで、民間の塾で理科の実験をしてくれるような塾が出てきているかと思います。私も興味を持って、この塾はどんなのかな

と思ったんですが、１ヶ月に２万円とか３万円とか塾の費用がかかるということで、理科だけにこんな費用をかけて子どもを通わせることはできないと思いました。

例えば、土曜日の授業で、「親子でやろう理科の実験」みたいな実験を学校でやってくれるような試みがあればよいと思います。夏休みの宿題で思いましたが、理科の実験は、家庭ではビーカーや試験管がないし、できる範囲が限られています。学校の施設を使ってちょっとした実験でいいと思いますが、そういった実験に親子で参加することによって、親子でも話ができるし、また、理科にも興味を持てるし、学力の向上にも少しかもしれないですがつながっていくような活動を土曜日にしていただければと思います。これは理科だけじゃないですが、そういったことをしていただけると、家庭とも連携してという試みになるのではないかと思います。もしそんな実験があったら、私は行きたかったと思います。

（鈴村委員）

学力のところで誤解があるといけませんので、もう一回お話をさせてください。２％３％というのは、あくまでスタートであって、ここから上を目指すときの数値を定めてほしいということです。順位で定めないでほしい。順位は愚かだと思います。１番から47 番までは必ず出るので、例えばパーセントでどうでしょうということです。２％、３％で満足する気は全くありません。学校の教員は、なぜできないか、なぜもっと分かってくれないかという思いがいっぱいですので、数値を見て悔しいと思っておりますので、このあたりは信頼をしていただきたいと思っています。

それから、今、佐藤委員から発言がありましたが、企業は随分学校を手助けしていただいています。具体的なところでは、今週、私の学校には中部電力と味の素の方が来てくれました。子どもたちは机の上にコンブを並べて、僕の身長より高いとか、実際に初めて握るカツオ節削りでゴリゴリ削って出汁を取るとか、中部電力の方は手回し発電機を持って来てもらって、電気を起こすのはこんなに大変なんだということを、身をもって体験することなどを全部無料でしていただきました。企業の社会貢献という形なのか、理科の振興も含めてやっていただいております。無料というところが大変ありがたいところです。

○　次期三重県教育振興基本計画の策定に向けて

（山田部会長）

よろしいでしょうか。時間的なことも考えないといけないですが、今のご議論で、特に２年間注力すべき点については、一応終わらせていただいてよろしいでしょうか。

それでは、次に最後の次期三重県教育振興基本計画の策定についてというところに入りたいと思います。今回の中間点検で今年度の審議をまとめていきますが、来年度以降

は、今のビジョンの計画期間が残り２年間になります。したがいまして、その２年間の取組を進めていくことが必要ですが、それと同時に、新しい２年後の三重県教育振興計画を策定していく作業もしていかないといけないというのが、来年度以降の２年間の取組になると思います。その場合は、いろいろな形で専門的な委員にも参加していただくとか、いろんな工夫をしながら進めていく必要があるかとは思っていますが、来年度から新しい教育振興基本計画の策定を進めるにあたって、いくつかこんなところを考慮すべきであるとか、当然今の振興計画を踏まえつつ、さらにバージョンアップさせていくべきところ、今の振興基本計画ではまだ足りないこと、入っていないこと、あるいは、いろんな教育行政や社会情勢の変化も加味しながら、いくつかのお気づきの点がありましたら、ご指摘いただければと思います。

先にこれまでの議論で今の三重県の教育ビジョンではあまり入っていないということで、この間、議論があったのはいくつかあると思います。一つは、体罰やコンプライアンスに関する記述があまりないというか、いじめ問題はありますが、逆に体罰のことは入っていないところがあります。子どもの安全・安心とかに少し入れましたが不十分であると。

それから、さらにこの社会のことを考えますと、グローバル化とか、先ほど東委員もご指摘のＩＣＴ化への対応ということもより必要になってくるとか。

それから、国が新しい教育計画やいろんな施策を示しております。また、教育委員会制度のことなどについても議論をされております。そういう状況の変化に何らかの対応が必要になってくることがあります。

それから、全体会のときに耳塚委員がおっしゃっていたことというのは、ほかの全国的な点から考えたときに、主に学力に関してですが、成果を測る客観的な指標がもう一歩少ないのではないかとか、教育ビジョン全体ですが、施策が漠然としていて、もう少し取り組むべき課題を焦点化してクリアにすべきじゃないかとか、三重県としての特徴が見えづらいとかいって、どういうところがありますかと質問を先月されてましたね。何とか私は答えましたが、いくつかこういうご指摘があります。委員の皆様の中で特に次期の基本計画の策定にあたって考えていかないといけない点や、具体的には審議の中でやっていきますが、前もって何かご指摘があればと思います。いかがでしょうか。

（水谷委員）

いろいろあると思いますが、特にグローバル化のことについてお話させていただきたいと思います。

語学教育に関して、今、小学校低学年からの英語教育が求められてきていると思いますが、なぜそうなったかというと、やはり日本人の英語力が、外国人に対して通じない英語であるということ、今まで中学から６年間しっかり英語を勉強してきて、しかも大学に入っても、また英語を勉強しているにもかかわらず、卒業して何がしゃべれるかと、

外国人に面と向かったときには何もしゃべれないで、「ノー、ノー」で過ごしてしまう、あるいは、分からないから「イエス、イエス」とニコニコしながら過ごしてしまってという人も結構いらっしゃると思います。しゃべれる・通じる英語と受験英語が全く違うのがかなり大きな問題だと思います。そこで、小学校においては受験英語を横に置いて、しゃべれる・使える英語をもう少し重点的に教えてあげて、英語は楽しいよ、英語がしゃべれると、これだけほかの国の人ともいろんなコミュニケーションが取れるということをしっかり身に付けさせてあげてほしいと思います。文法とかを勉強し始めると、私もそうでしたが、途端に何が何だか分からなくなってしまうところが、頭の中でそれを組み立てながら話すことは非常に難しいので大変になると思いますが、小学校のときには間違いとか正しいとかではなく、コミュニケーションを取ると楽しい、簡単な単語でも通じることをしっかり勉強できるような体制を取っていただいて、三重県の子たちは意外としゃべれるんだよと。それによって外国の人たちともコミュニケーションを取れると、こんなにいろんな楽しいことがあることを分かってもらえるような教育を考えることが必要じゃないかと思っております。

それが、これから社会に出たときに結構役に立つのではないかと思います。

（森喜委員）

学力の向上を見たときに、全般的にみんなのレベルアップを図っていくのか、今のふたこぶラクダ的な成績のよい層と低学力の層を埋めていく方法、そのふたこぶをひとこぶに近づけていく方法を採るのか、両方できればいいですが、両方を視野に入れて方策を採っていくべきではないかと思います。どちらに重点を置かなければいけないかというのも考えていかなければいけないですが、県として両方でしょうが、問題視するのをどちらにするかというのをはっきりさせたほうがいいかと、それに対する方策を練られたほうがいいかとも思います。

（山田部会長）

おしなべてというのでなく、それぞれの学力の違いを考えた施策が必要だということですね。

ほかにいかがでしょうか。

（向井委員）

次の教育振興基本計画ということですから、できれば三重県内にとどまらず、優れた県と意見交換して、しっかりと情報を集めていただいて、あらゆるジャンルから人を集めて進めてもらいたいと思います。人的な育成が必ず県の力になりますし、そして、国の力になっていくと思っています。学校教育の重要さを知るためにも、幅広い各県の取組、もしくは世界で優れている取組があれば、そういう情報も県で用意して、ここだけ

で審議するのではなくて、グローバル情報を集めてほしいと思います。

（中村委員）

どの項目を議論ということよりも、こんな方向や、こういうことに留意いただいて議論や検討をいただけたらという視点で４つほど申し上げます。

１つは、子どもや保護者、家庭、地域、三重県の実態を、きちんとしたデータに基づいて原案を作っていただいたり議論したりすることが大事かと思います。その時々の風評で議論をすると、３年先、４年先に振り返ってみてどうかというところに陥ってしまうのではないか。

それから、この教育ビジョンが、タイトルに文句を言うわけではないですが、私もこの策定に参画した一人ですので、何が何でもやらなきゃいけない達成すべきミニマムなのか、大体これぐらいを目指しましょうというスタンダードなのか、こういう方向に進みましょうというビジョンなのかというのを、おそらく教育の特性上、この３つがそれぞれ入り交じったものになるかと思いますが、具体的な議論をするときは明確に分けてやっておくべきじゃないかと思います。

それから、どんな良いことを書いても、それが実現可能かどうかというのは担保しなければいけませんから、財政的やマンパワー的にその方向や取組が持続可能なものなのかということは、事務局でしっかり検討もしていただきたい。

最後に、情緒的な表現で申し訳ないですが、子どもたちのことですから、多くの人々に参画してほしいし、参加すべきだと思っています。その際に学校は孤立してはいけないし、学校を孤立させてはいけない。家庭を孤立させてもいけないし、孤立してもいけない。地域社会も同じだと思います。ましてや、子どもが孤立することのないように、そのことだけは、議論する際も原案を作る際もお願いをしたいと考えております。

（森喜委員）

教員の資質の向上についてですが、ここに挙げられていることが、パソコンがどれだけ使えるかとか、英語力がどれだけあるかということに重きを置かれていますが、保護者の身になるとどれだけの指導力があるかとか、人間的な魅力がどれだけあるかというのがとても大きいと思います。そういうところにも少し力点を置いていただいて、教員の資質の向上について考えていただきたいと思います。問題を起こしているような先生は、人間的なところの欠如が大きいかと思いますので、そういう視点も大事にしていただきたいと思います。

（佐藤委員）

次期計画に向けてということですが、今、例えばＩＣＴ化のことを話しても、ＩＣＴ化は大事ですが、２年後には全く違うものがきっと出てきていています。機械に対して

は、今考えることもできないかと思いますが、こういったＩＣＴとかＩＴのものでトラブルになっていることの最もの原因は、いじめもそうですが、コミュニケーション力が低いということで、コミュニケーション能力を高めていく教育がとても大事かと思います。それがどの施策に入るのかわかりませんが、そういったコミュニケーション力という言葉を入れて、意識してやっていければと思います。

（山田部会長）

よろしいでしょうか。

本日は、いろんなご意見をいただきました。最初は１つ目の柱の中間点検について、２つ目は、今後２年間に特に注力するべき取組について、３つ目が今ご議論いただいた次期の計画の策定に向けてとそれぞれご意見をいただきました。このご意見をもとに「審議のまとめ」（案）を事務局で作成していただいて、次回の全体会に提示をしていきたいと思います。

次回の全体会は、ご確認いただいていると思いますが、２月４日に開催をされます。それまであまり時間もないので、事務局が作成した資料を私のほうで確認をさせていただいて、皆様に本来はお諮りしたうえで全体会に提示していかなければいけないんですが、一応私の責任で資料をまとめさせていただきたいと思います。それについて、内容的に不十分な点については、また全体会でもいろいろ揉んでいただければと思います。そういう形で進めさせていただいてよろしいでしょうか。よろしくお願いします。

それでは、これで今年度の部会は最後になります。本当に皆様、毎回活発なご審議をいただき、また、進行に大変ご協力をいただきまして、よく私は会議が遅くなり本当に申し訳ないと思っていますが、ご協力に感謝を申し上げます。ありがとうございました。

それでは、進行を事務局にお返しします。

３　連絡事項

（加藤教育改革推進監）

山田部会長、進行を誠にありがとうございました。

次回の連絡です。先ほども部会長からありましたように２月４日火曜日 13 時 30 分から、会場はベルセ島崎を予定しております。お忙しいと存じますが、よろしくお願い申し上げます。

それでは、以上をもちまして教育改革推進会議第４回第１部会を閉会させていただきます。本日は、誠にありがとうございました。